

廃校のこと

学校に見る時代の変化

匝 探 訪

26

今年の春、廃校や統合となった学校の報道を目にするのが多かったような気がします。創立から123年の歴史に幕を閉じた八日市場小学校米倉分校もその一つです。市内12の小学校は、いずれも開校から100年以上の歴史があり、時代の変化に対応



長い歴史に幕を閉じた米倉分校

しながら現在に至っています。明治5年に「学制」が發布され、同6、7年にかけて現在の榑海、八日市場、豊栄、飯高の各小学校の前身ともいえる学校が村の家塾を教場（教室）として開かれました。いずれも幕末の寺子屋から発展、継承されたものです。

開設と運営にあたっては、現在の大字（おおあざ・当時の村集落）ごとに寄付金や授業料を集め、単独あるいは、3の村が連合して進めてきました。

米倉分校は、1884年（明治17年）6月、成就院（じょうじゅいん）というお寺を仮校舎に村立として開校しました。同年まで飯倉村（豊栄地区）と連合し学校を運営していましたが、行政区の変更により米倉村単独で学校を開くことになりました。

5年後の明治22年の町村合併で米倉村は福岡町（のちに八日市場町）となったものの、校舎の新築は開校から16年目の同34年のことでした。この

頃は小学生からも授業料を集めて運営していた時代でした。福岡小学校（現在の八日市場小）の米倉分校となったのは、合併から18年目の明治40年のことです。この頃になると、各校とも授業料負担もなくなり、就学率も9割を超えるようになりました。

明治22年の合併による新町村誕生後、村ごとの学校が統合し、ただちに学校建設が始まったのは須賀、吉田、豊栄小学校などで、明治30年代から40年代にかけて村立学校として環境が整えられました。中には、統合した新校名に使われた「共興」が、合併後の新村名となった共興小学校のような例もあります。

こうして村民総出で小学校建設に取り組んだことが、のちに学校と地域との連帯感をいっそう強めたのでしょう。

戦後の昭和22年5月、新制中学校が開校しますが、すべてに校舎が完成するのは5年後で、この時も地域から土地や建設費の寄付がありました。それらも廃校し、現在では市内3校となりました。学校の歩みをたどると、時代の変化を感じます。

問八日市場図書館 ☎73・3746